

院内研修について

看護部教育担当参事 石崎 邦代

<院内研修>

基礎研修として、社会人としてのマナーを身につけ、公務員・職業人としての自覚と心構えができるように新採用者研修があります。新人技術研修は（皮内・皮下・筋肉・静脈注射、輸血・インシュリンについて、膀胱内留置カテーテル、輸液・シリンジポンプについて、危険な薬剤について）5～6月の毎水曜日に時間外で、科長が担当し行いました。その後も6ヶ月振り返り研修、1年研修を企画しています。2年目では日常の看護実践を振り返り、看護観を深めるため、事例検討を行っています。自己の看護実践場面をプロセスレコードにし、検討することで学びを得ています。3年目は、リーダーシップの基本を理解し、リーダーとしての資質を向上させる能力や知識を得ることができるよう、リーダーシップ研修を行っています。基調講演聴講後KJ法で問題点を明確にし、解決のための具体策を導きだします。リーダーシップフォローアップ研修では、その後気がかりな臨床場面をプロセスレコードにし、自己の課題の解決策をみいだし、リーダーとしてさらに深い気づきを得ています。

経年別研修は中堅者ⅠとⅡがあり、看護観を深めることができるよう「終末期の看護」はシリーズとして企画していきたいと考えています。

目的別研修はプリセプター研修（基礎編、支援編）・看護補助者研修があります。

看護講演会は院外から講師をお招きし、年2回開催しています。講演に際しては、名寄市内・近郊の病院・施設や南宗谷管内の国保病院などに案内を配布し、共に学ぶ機会を得られるようにしています。トピックス研修は、その時々のニーズに合った内容を検討し企画しています。

平成16年度の院外研修参加者は、公費自費を合

わせ延べ120名以上となり、年々増加傾向であり学習意欲の向上がうかがわれます。

<施設間交流研修>

施設間交流研修は、南宗谷国保病院（四町）の看護師の方が研修に来ています。

当病院の看護実践を見て、患者様への対応・職員間の連携・業務内容が業務改善の参考になったという評価がありました。情報や意見を交換し、お互いに連携のとりやすい体制作りにも役立てていきたいと考えています。また、施設間交流研修は医療機能評価で良い評価をいただき、今後も継続しさらに内容を充実させていきたいと考えています。

<今後の課題>

昨年厚生省による「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会報告書」の概要を含めた研修会が開催されました。医療技術の進歩、患者様の高齢化・重症化、平均在院日数の短縮化の中で、多重課題を抱えながら複数の患者様を受持ち、安全に看護ケアを提供するために、看護実践能力を強化する新人看護職員研修は重要であることが話されていました。新人研修や院内研修の充実が、質の良い看護実践の提供やキャリアアップにつながり、就職希望や離職予防の要になることを改めて認識しました。集合研修での気づきを大切に、前向きに学ぶ気持ちを持続することが大きな課題となります。また、看護の内容を問われた時に、看護者一人ひとりの看護観が大切なキーワードになります。人として他者を思いやる気持ちや感受性を豊かにし、人間性が高められるような研修を企画したいと考えます。